

第61回

全国植樹祭 かながわ 2010

森が育む あなたの心 森を育む あなたの手

記録誌



神奈川県

第61回全国植樹祭記録誌



神奈川県

御製

雨の中

あまたの人と

集ひ合ひ

苗植ゑにけり

足柄の

森に

御製

雨の中

あまたの人と

集ひ合ひ

苗植ゑにけり

足柄の

森に



発刊の言葉

(神奈川の豊かな森林に向けて)

新緑がまぶしい季節を迎えた5月23日、天皇皇后両陛下をお迎えして、第61回全国植樹祭を、南足柄市にある足柄森林公園丸太の森地区と秦野市の秦野戸川公園地区の2会場で開催いたしました。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず、県内外から約8,300人もの皆様にご参加いただき、盛会のうちに無事大会を終了することができました。大会の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、本県での全国植樹祭の開催は、今回が初めてとなりましたが、昭和24年には、昭和天皇、香淳皇后にご臨席を賜り、箱根町仙石原で「愛林日植樹行事」が行われ、これが全国植樹祭の原型となったと言われています。

神奈川県には、丹沢大山や箱根といった山々から、里山や市街地近郊の樹林地まで、実に県土の40パーセント近くを占める、約9万5,000ヘクタールに及ぶ森林があります。これらの森林は、水源の涵養や、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材の供給など、私たちの暮らしにさまざまな恵みをもたらしてくれています。

その一方で、今、丹沢大山では、ブナやモミの立ち枯れが進行し、手入れ不足などにより、山地や里山でも森林の荒廃が進んでいます。

こうした中、第61回全国植樹祭は、大会テーマを「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」とし、50年後の神奈川の森林の姿を県民全体で共有し、協働して進める本県の森林再生の取組みを全国に向けて発信するとともに、こうした取組みを一層前進させることを目的として開催しました。さらに、できるだけ多くの県民の皆様にご参加いただき、本県の森林再生の取組みをご理解いただけるよう、神奈川県全体を全国植樹祭のステージとし、県内13市町にサテライト会場を設置して、市町と共に関連イベントを実施いたしました。

今回の全国植樹祭を契機として、先人が守り、育んできた、かけがえのない神奈川の森林を次の世代にも継承していくため、これまでの森林再生の取組みを一層推進し、長い年月をかけ、ぜひとも神奈川の森林の再生を成し遂げたいと思います。

結びに、第61回全国植樹祭の開催に当たり、多大なるご支援・ご協力を賜りました多くの皆様に心からお礼を申し上げます。

平成23年2月

第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会会長

神奈川県知事 松沢成文

第61回全国植樹祭記録誌

目次

御製	3
発刊の言葉(神奈川県知事)	4
開催概要	6
大会テーマ・シンボルマーク・大会ポスター原画	8
愛林日植樹行事	10
かながわ森林再生50年構想	11

第61回全国植樹祭

会場準備・参加者入場	12
記念植樹	14

南足柄会場

プロローグ～ようこそやさしさあふれる神奈川の森へ～	16
感謝状贈呈	17
記念切手贈呈	18
天皇皇后両陛下御到着	19
開会のことば	20
苗木の贈呈	21
天皇皇后両陛下お手植え	22
代表者記念植樹	24
アトラクション～森から人へ～	
森が育むあなたの心～Gift for you～	25
天皇皇后両陛下御退席	26
エピローグ～神奈川の木と関わる人々～	27

2会場連携セレモニー

～過去から現在へ、現在から未来へ～	28
-------------------	----

秦野会場

招待者入場時アトラクション	32
プロローグ～ようこそ都市と融和する神奈川の森へ～	33
天皇皇后両陛下御到着	34
三旗掲揚・国歌斉唱	35
主催者あいさつ	36
表彰	37
天皇皇后両陛下お手播き	38
アトラクション～人から森へ～	
森を育むあなたの手～Clap Your Hands～	40
大会宣言	41
リレーセレモニー	42
閉会のことば	42
天皇皇后両陛下御出発	43
招待者退場時アトラクション	44
サービス広場	45

作品御覧・レセプション

作品御覧	48
レセプション	49

サテライト会場

サテライト会場	50
---------	----

記念事業

苗木のホームステイ	59
森のリレーフェスタ	60
飾花プランターづくり (間伐材の活用と子どもたちの木工体験)	62
第61回全国植樹祭かながわブレ大会2009	63
かながわジュニア・フォレスター教室	64
カウントダウンセレモニー	66

関連事業

第39回全国林業後継者大会	67
森林循環フェア、水源林のつどい	68
成長の森事業、定着型ボランティア活動、 森林再生パートナー・水源林パートナー	69
会場市の取組	70

開催までの記録

実行委員会設立総会、第61回全国植樹祭実施計画の決定	74
会場整備状況	75
県産木材の積極的な活用	77
リハーサル	78
大会テーマソングの作成	80
広報計画	81
大会弁当・参加記念品	84
協賛計画	86
協賛者・協力者	87

開催後の取組

かながわジュニア・フォレスター教室2010	88
順調に育つ植樹会場の苗木	89

資料編

	91
--	----

開催概要

開催理念

全国植樹祭の開催を通じて、森林再生に向けた神奈川の取組を発信し、全国との交流を図ることにより、本県が目指す森林再生の姿と手法を、より一層確実なものにするとともに、県民協働のうねりを高めて、誰もが森林と積極的な関わりを持ち、その恵みを実感できる社会の実現を目指します。

理念展開イメージ

大会テーマ

森が育む あなたの心 森を育む あなたの手

第61回全国植樹祭展開コンセプト

神奈川県は、**発信 + 協働 + 前進** を形にして、
一歩先へ行く新しい植樹祭を展開

One Step, One Lead

一歩リードした 神奈川県を発信

神奈川県で行われた「愛林日植樹行事」は、全国植樹祭の原型をつくりました。神奈川県（先進力+協働力）を植樹祭に活かし、県と民、民と民の連携をつくります。

神奈川県民 一人ひとりの一歩が、 目指すべき森林を創造

森林再生に向けて踏み出す一歩の力を大切に、県民の行動を喚起します。

第61回 全国植樹祭を機に、 さらに一歩先へ

この大会をきっかけに、森林再生に向けた県民協働をいっそう盛り上げます。地域特性に応じた、50年後の目指すべき森林の姿をイメージしながら活動します。

開催概要

開催日：平成22年5月23日（日）

主催：社団法人国土緑化推進機構・神奈川県

開催会場：お手植え・植樹会場（南足柄会場）—— 足柄森林公園丸太の森地区（南足柄市広町）

式典・植樹会場（秦野会場）—— 秦野戸川公園地区（秦野市堀山下・戸川・横野）

荒天会場：秦野市総合体育館

サテライト会場：13会場

湯河原会場（湯河原梅林公園及び桜郷地区）、横浜会場（玄海田公園）、小田原ふるさとの森会場（久野塔ノ峰山頂付近）、相模原会場（県立津久井湖城山公園水の苑地）、厚木会場（若宮公園）、小田原わんぱくらんど会場（小田原こどもの森公園わんぱくらんど）、山北会場（大野山山頂）、横須賀・葉山会場（湘南国際村）、伊勢原会場（伊勢原市総合運動公園）、川崎会場（生田緑地）、藤沢会場（引地川親水公園一帯）、海老名会場（海老名市役所周辺）、開成会場（中家村公園）

開催会場

■ 足柄森林公園丸太の森地区 お手植え会場 (南足柄会場)

お手植え会場は、箱根外輪山の北東に位置し、県立足柄ふれあいの村や足柄森林公園丸太の森に隣接する森林地域にあります。周辺施設は、子どもたちを始め多くの人々が訪れ、森林学習の拠点となっています。



■ 秦野戸川公園地区 式典会場 (秦野会場)

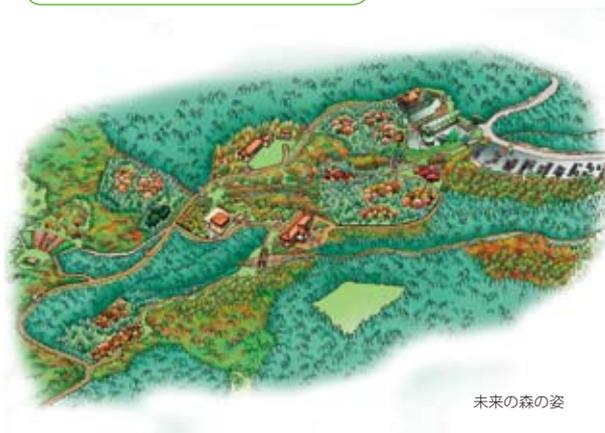
式典会場となる県立秦野戸川公園は、丹沢山地の南に位置し、丹沢の山々から流れる水無川の自然を活かした都市公園です。丹沢山地への登山口として知られるこの地域は、多くの登山者や観光客が訪れ1年中にぎわっています。



■ 植樹会場

植樹会場は、お手植え会場、式典会場の近隣にあり、それぞれから徒歩で移動可能な距離にあります。両会場ともスギ・ヒノキの人工林内で「かながわ森林再生50年構想」の目指す森林再生の見本になるよう、多様な森づくりを行います。全国植樹祭開催後は、県民と協働して取り組む森林再生を象徴する県民運動の場として活用していきます。

足柄森林公園丸太の森地区



未来の森の姿

秦野戸川公園地区



未来の森の姿

大会テーマ

「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」

作者 宗像 洋明さん(横浜市)

シンボルマーク



愛称「かなりんちゃん」

作者 河野 通さん(大阪府)

制作意図

樹で「ハート」を高く掲げ、手で樹を大切に植える「かなりんちゃん」の姿を通して、第61回全国植樹祭の大会テーマ「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を表現しました。愛称の「かなりんちゃん」は、神奈川の(かな)と森林の(りん)をかけあわせ、名付けました。



大会ポスター原画



画題「温かい緑」

作者 井上 美紀さん

(平成20年度応募時 県立小田原城北工業高等学校3年)

制作意図

テーマの「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を表現するため、みんなが笑顔で、手の平に描いた葉の模様を見せ合っている所を表現しました。みんなの手でハート形がつけられていることで心を表しました。



愛林日植樹行事

全国植樹祭を神奈川県で開催するのは今回が初めてとなりますが、昭和24年に箱根町仙石原で開催した「愛林日植樹行事」には、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、地元の大勢の方々にご参加いただきました。

「愛林日植樹行事」を神奈川県で開催した翌年の昭和25年に、山梨県で全国植樹祭の第1回大会が開催され、これ以降各都道府県の持ち回りにより毎年行われています。

この「愛林日植樹行事」をステップに、現在の全国植樹祭は発展したと言われています。



昭和天皇・香淳皇后両陛下



5,000人を超える参加者が集まり盛大に行われました



昭和天皇お手植えの様子



香淳皇后お手植えの様子



植樹場所へ向かう子どもたち



植樹する子どもたち

かながわ森林再生50年構想

県内には、丹沢大山や箱根といった山々から、里山や市街地近郊の樹林地まで約9万5000ha、県土の40%近くを占める森林があります。今、この森林が、丹沢大山でのブナやモミの立ち枯れだけでなく、山地や里山まで県内各地で、手入れ不足などにより荒廃が進んでいます。

県では、前の世代から引き継いだ森林の様々な恵みを子や孫に手渡すため、50年かけて、皆さんとともに森林再生の取組を進めていきます。

広葉樹林の再生

- 丹沢大山では、ニホンジカによる下草や低木の過度の採食を防ぎつつ、後継樹を育成し、多様な樹種による原生的な自然林に誘導していきます。
- かつて薪や炭の原木として利用され、その後放置されている山地や里山の二次林では、間伐を繰り返すことで陽光を入れ、周辺の多様な広葉樹を林内に導入するなど自然力を利用して、多様な樹種からなる自然林に誘導していきます。
- なお、土壌流出の著しい溪畔林などでは、自然力に頼るだけでなく積極的に広葉樹の植樹を行います。

人工林から混交林への転換

- 林道から200m以上離れたスギ・ヒノキの人工林では、間伐を繰り返すことで陽光を入れ、周辺の多様な広葉樹を林内に導入するなど自然力を利用して、混交林や巨木林に誘導していきます。
- なお、急傾斜地や、周囲が人工林ばかりで広葉樹の導入が期待できないところなどでは、自然力に頼るだけでなく積極的に広葉樹の植樹を行います。

人工林の再生

- 林道から200m以内のスギ・ヒノキの人工林では、間伐を行い、木材として利用するとともに、伐採後は、花粉の少ないスギ・ヒノキや今後実用化する無花粉スギを植栽し、複層林などに誘導していきます。

50年後のめざす姿と主な取組



第61回全国植樹祭

会場準備・参加者入場

あいにく、朝から小雨が降る天気でしたが、植樹を終えた参加者が続々と会場に入場してきました。



参加者が続々と式典会場へ集まる



県内外の特別招待者



式典会場に着席した大勢の参加者



お手植え行事の準備



本番前の入念な打ち合わせ



進行をチェック



記念植樹

植樹会場は、南足柄会場と秦野会場にそれぞれ設けられました。植樹は各会場の特性を考え、「広葉樹林の再生」、「人工林から混交林への転換」、「人工林の再生」を目指し、両会場で23種類、約9,000本の苗を、参加者が未来の森の姿をイメージしながら植えました。



植樹会場へ向かう参加者



指導員から説明を受ける参加者



斜面での植樹なので、すべらないように注意!



これから頑張って植えるぞ!



みんなで協力して植えたよ!

南足柄会場 プロローグ ～ようこそやさしさあふれる神奈川の森へ～

神奈川フィルハーモニー管弦楽団の弦楽四重奏の生演奏に続いて、映像「ようこそ神奈川の森へ」では、神奈川県観光名所と森林再生の取組を紹介しました。



神奈川フィルハーモニー管弦楽団の弦楽四重奏



感謝状贈呈

第61回全国植樹祭の大会テーマ、大会ポスター原画、シンボルマークは公募され、最優秀賞受賞作品が採用されました。南足柄会場において、最優秀賞受賞者に感謝状が贈呈されました。



感謝状の贈呈を受ける受賞者の宗像洋明さん(中)、井上美紀さん(右)



松沢成文神奈川県知事が感謝状を手渡しました



「かなりんちゃん」が登場

記念切手贈呈

第61回全国植樹祭を記念して発行されたふるさと切手「国土緑化」初刷が、中城吉郎郵便事業（株）取締役副社長から松沢成文神奈川県知事へ贈呈されました。



記念切手を披露する松沢成文神奈川県知事



中城吉郎副社長から贈呈



記念切手デザイン

切手には、今回天皇皇后両陛下にお手植え、お手播きいただいた10の樹種のうち6種類と県の木「イチョウ」、県の花「ヤマユリ」、秦野市の花「カワラナデシコ」、南足柄市の花「リンドウ」の合計10種類の写真をデザインしました。

平成22年5月21日（金）全国で一斉発売

天皇皇后両陛下下御到着

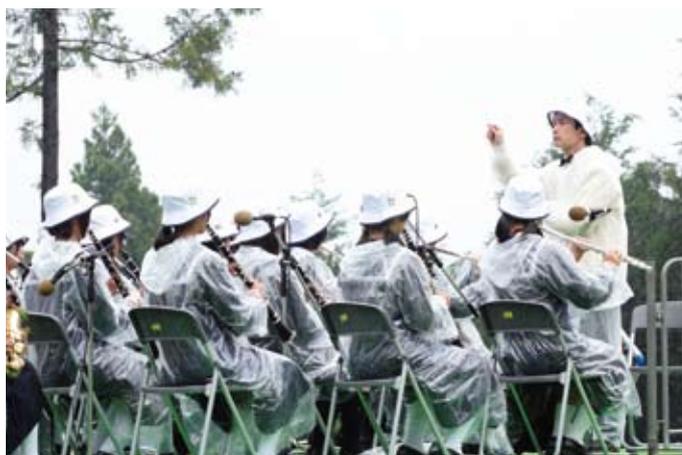


開会のことば



開会のことば

社団法人国土緑化推進機構副理事長 谷 福丸



演奏する南足柄市立岡本中学校吹奏楽部



苗木の贈呈

緑の少年団がドングリから大切に育てた苗木が、代表者から緑化推進連絡会議議長(代理 島田泰助林野庁長官)と田島一成環境副大臣へ贈呈されました。



天皇皇后両陛下お手植え

天皇陛下はケヤキ、スギ（無花粉）、クヌギの苗木を、皇后陛下はヤマザクラ、イロハモミジ、シラカシの苗木をお手植えになりました。





代表者記念植樹

両陛下のお手植えに合わせて、県内外の参加者代表の方々が記念植樹を行いました。



記念植樹を行う参加者代表の皆さま。手前は介添える緑の少年団



代表者の皆さまによって植えられた苗木



アトラクション ～森から人へ～

森が育むあなたの心 ～Gift for you～

木や森がいつも人とともにあることを再認識し、木や森の大切さと、私たち人がこれから取り組む姿勢をサインマイム(手話を取り入れたパントマイム)による創作と、映像、ナレーションで表現しました。



出演・社会福祉法人トット基金 日本ろう者劇団(理事長 黒柳徹子)
・相武台シティバレエ アンド ミュージカルカンパニーグランワルツ
・田中健太(沢入国際サーカス学校研究生)

天皇皇后両陛下下御退席

この後、両陛下は、お車で秦野市の式典会場へ向かわれました。



エピローグ ～神奈川の木と関わる人々～

木と生きる・木と暮らす

神奈川の伝統工芸の一つ、箱根寄木細工の匠、金指勝悦さんから毎日の仕事の中で感じる、木や仕事に対する想いや愛情についてお話を伺いました。また、苗木のホームステイを行った緑の少年団から、日頃の活動を通して感じたことや大切に育てた苗木のこと、身の回りの木に対する気持ちについてお聞きしました。



ご自分の作品やその材料となる木材を説明する金指さん



自分で苗木を育てた体験を話す緑の少年団

🍃 2会場連携セレモニー ～過去から現在へ、現在から未来へ～

未来につなぐメッセージ

今回の植樹祭は南足柄会場と秦野会場を中継で結びました。まず、平成6年4月に県立21世紀の森に埋めたタイムカプセルを開封し、「過去からのメッセージ」を紹介。南足柄会場では、山下泰裕さん（神奈川県体育協会会長）、秦野会場では苅谷俊介さん（秦野市在住・俳優）、さらに県内各地から集まった14の家族が、50年後に開封される「未来へのメッセージ」を「どんぐりポスト」に投函しました。そして白井貴子さん（かながわ環境大使・歌手）が秦野会場で歌い出した大会テーマソング「森へ行こう！」は、2会場を結んで大合唱となりました。



山下泰裕さんが自分の「未来へのメッセージ」を紹介



南足柄市のキャラクター足柄山の金太郎くんが「どんぐりポスト」を持って登場



代表の家族がそれぞれの想いを込めて投函



県内各地から集まった代表家族にインタビュー



刈谷俊介さんが自身の「未来へのメッセージ」を投函。左は秦野市キャラクター・丹沢はだの三兄弟



代表家族が未来への想いを語りました



秦野

「森へ行こう!」を熱唱する白井真子さん



秦野



南足柄



秦野

歌声の輪は会場いっぱいに広がる

秦野会場 招待者入場時アトラクション

南足柄市立向田小学校の皆さまによる民俗芸能「足柄ささら踊」が披露されました。この踊りは、国選択無形民俗文化財で江戸時代に始まり、明治中期までは少女たちの盆踊りとしてさかんに行われていました。現在は保存会が演技指導しています。



子どもたちは伴奏しながら、元気良く歌いました

プロローグ ～ようこそ都市と融和する神奈川の森へ～

始めに愛林日植樹の様子など神奈川の森と人との関わりを映像で紹介し、続いて丹沢アルプホルンクラブ、秦野観光和太鼓による地域や森に因んだ神奈川県伝統芸能で、参加者の皆さまをお迎えしました。また、映像「神奈川の未来に向けて」では神奈川県現在の現在とこれからの未来をご案内しました。



すがすがしいアルプホルンの音色が会場に響き渡りました



勇壮で迫力ある和太鼓の演技

天皇皇后両陛下下御到着

両陛下は、南足柄市のお手植え会場からお車で移動され、秦野市の式典会場に御到着されました。



三旗掲揚・国歌斉唱



三旗掲揚(左から大会旗(緑の少年団)、国旗(ガールスカウト)、県旗(ボーイスカウト))



雨谷麻世さんのアカペラによる国歌斉唱

主催者あいさつ



大会会長あいさつ

大会会長 衆議院議長 横路 孝弘

天皇皇后両陛下をお迎えして、第61回全国植樹祭を開催するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

森林は、国土の保全、水源の涵養、美しい川の流れ、豊かな海、木材の供給などのほか、緑とのふれあいを通して健康と心の安らぎを与えるなど、私たちに多くの恵みをもたらしています。日本の文化もこうした木々や森林に囲まれた風土の中から生まれてきたのです。

わが国の豊かな森林は、先人が努力を重ね、守り、育ててくれた貴重な財産であります。これまで以上に多くの市民、特に若い世代の人々に活動に加わってもらい、十分な植樹や手入れを行って次の世代に継承されなければなりません。

神奈川県では「森林再生50年構想」に取り組み、広葉樹林の再生、人工林から混交林への転換、人工林の再生を図るとともに、水源の森林づくりに取り組んでおられる中で、南足柄市と秦野市において、「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を

テーマに、第61回全国植樹祭が開催されますことは、大変意義深いことでもあります。

木を植え、森を造っていくには多くの人々のねばり強い持続する意思と時間が必要です。フランスのジャン・ジオノの「木を植えた人」という有名な絵本があります。木が伐採され泉も枯れ、人々が去った荒れ果てた地で毎日毎日、100粒のどんぐりを30年にわたって植え続け、森を甦らせた人の話です。森が復活すると、泉からは水があふれ小川のせせらぎが生まれ、人々も、鳥もリスも戻ってきたという話です。

みどりの恵みを享受している私たちが、森林づくりを力強く推進することを通じて、この恵まれた自然を未来へ確実に引き継いでいくことを強く期待いたします。

ご参集の皆様には、今後とも緑化の推進にご尽力賜りますようお願いいたしますとともに、開催にあたりご協力をいただきました神奈川県の皆様を始め関係各位に厚く御礼を申し上げます、私のあいさつといたします。

.. .. .



神奈川県知事あいさつ

神奈川県知事 松沢 成文

本日ここに、天皇皇后両陛下ご臨席の下、第61回全国植樹祭を開催できますことを、誠に光栄に存じます。

また、ご来賓の皆様、そして全国各地からご参加いただいた大勢の皆様、ようこそ神奈川県にお越しくださいました。900万県民を代表して心から歓迎申し上げます。

神奈川県は、首都圏に位置し、開港・開国以来、日本の近代化をリードするとともに、力強い経済力によりわが国の発展を支えてまいりました。その一方で、緑豊かな山並みや、美しい水をたたえる川や湖、そして変化に富んだ美しい海岸線を有するなど、多彩な自然環境にも恵まれております。

本県には、丹沢大山や箱根といった山々など、実に県土の4割近くを占める森林があります。森林は私たちの生命に欠かすことのできない水を蓄え、木材を生み出し、二酸化炭素を吸収して地球温暖化の防止に資するなど、私たちの暮らしに多くの恵みをもたらしてくれます。しかしながら、近年、森林は手入れ不足などにより、荒廃が進んでいま

す。本県では、豊かな森林の恵みを次の世代に引き継いでいくため、「かながわ森林再生50年構想」を策定し、スギやヒノキの人工林から、多様な広葉樹も一緒に生育する混交林への転換を進めるなど、荒廃した森林の再生に取り組んでいるところです。

こうした森林再生の取組みを推進していく上では、県民や企業・団体の皆様のご協力が欠かせません。そこで、本県では、全国に先立ち森林ボランティア活動のリーダーを養成する「神奈川県森林インストラクター制度」や、企業や団体からの寄付を基に森林を整備する「森林再生パートナー制度」の創設などに積極的に取り組んでまいりました。

さらに、今回の全国植樹祭は、より多くの皆様が森林の大切さを知るきっかけとなり、また、森林づくり活動に参加していただけるよう準備を進めてまいりました。

具体的には、植樹する苗の一部を、地元の子どもたちが育てる「苗木のホームステイ」や、「植える」・「育てる」・「活用する」を体験する「森のリレーフェスタ」などを、NPOの方々との協働で実施するとともに、県全体が全国植樹祭のステージとなるよう、県内の13の市町にサテライト会場を設置し、より多くの県民の皆様に森林や緑に対する理解を深めていただけるよう努めてまいりました。

このたびの大会を契機として、こうした本県の森林再生の取組みをさらに前進させるとともに、全国に広く発信することで、先人が守り、育んできた、かけがえのない森林を次世代に継承していく運動の輪が、全国に広がっていくことを願っております。

結びに、大会の開催にお力添えを賜りました多くの皆様に深く感謝申し上げますとともに、天皇皇后両陛下のますますのご健勝をお祈り申し上げ、私のあいさつといたします。

表彰

平成22年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール、平成21年度緑化功労者、平成21年度全日本学校関係緑化コンクール、第61回全国植樹祭記念かながわ未来につなぐ森づくり賞の表彰が行われました。



横路孝弘大会会長から表彰を受ける
ポスター原画コンクール入賞者代表の鈴木蒼馬さん



表彰状授与者の松沢成文知事、川端達夫文部科学大臣、赤松広隆農林水産大臣



緑化功労者代表の濱野進さん



学校関係緑化コンクール表彰を代表して、
岡崎市立常磐東小学校・三浦倫夫校長



かながわ未来につなぐ森づくり賞代表の
川又正人さん

天皇皇后両陛下お手播き

天皇陛下は、ブナ、スダジイの種を、皇后陛下はコブシ、ヤブツバキの種をお手播きになられました。





アトラクション ～人から森へ～

森を育むあなたの手 ～Clap Your Hands～

かながわの森の成長を表すアニメーション映像（監督：山本二三）に続いて、「かながわダンスキッズ」の子どもたちが、森への想いをダンスパフォーマンスにのせて表現しました。子どもたちの元気あふれる躍動感に圧倒されました。



大会宣言

社団法人国土緑化推進機構 理事長 佐々木 毅



第61回全国植樹祭は、神奈川県南足柄市の足柄森林公園丸太の森地区と秦野市の県立秦野戸川公園地区において開催され、「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」が大会テーマとして掲げられた。

地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、国際的な環境問題への関心が高まっている今日、私たちは、心のやすらぎの場であり、また、木材の供給や水源の涵養、二酸化炭素の吸収など、さまざまな恵みをもたらす緑の社会資本である森林を再生させ、良好な状態にして未来に確実に引き継いでいくことを目指し、次の事項を重点に、緑化運動の更なる発展を図ることを宣言する。

- 一、森林の豊かな恵みを未来の子供たちに引き継ぐため、国民参加の森林づくり運動を一層推進する。
- 一、循環資源である森林・木材の積極的・多角的な利活用の拡大に努め、林業・木材産業の振興を図る。
- 一、森づくり活動の実践や森林・環境教育の充実等を通じ、次代を担う心豊かで健やかな青少年を育成する。

平成22年5月23日

第61回全国植樹祭

リレーセレモニー



神奈川県知事から、和歌山県知事に
植樹祭のシンボルである木製の地球儀を引き継ぎました。

..

.....

次期開催県知事あいさつ

和歌山県知事 仁坂 吉伸



本日、第61回全国植樹祭が、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、緑したたる神奈川県において、盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

来年の第62回全国植樹祭は、和歌山県において開催いたします。誠に光栄なことと存じます。

和歌山県は、紺碧の黒潮が洗う紀伊半島に位置し、穏やかな気候と豊かな水の恵みが育くんだ美しい紀伊の山々があります。また、自然保護の先覚者でもあった南方熊楠が、研究の場としてその半生を捧げた生物の宝庫でもあります。

平成16年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」は、荘厳な雰囲気と底知れぬ魅力に富み、これまで多くの人々を迎えてまいりました。そうした和歌山県に、天皇皇后両陛下をお迎えし、全国植樹祭を開催いたしますことは、県民にとりまして大きな喜びであります。

和歌山県は、日本の山々に樹木の種を播き青山となした神が鎮まるところと、神話に記された「木の国」であります。来年開催する全国植樹祭は、先人が守り育ててきた豊かで多様な森林と木の文化を、より良い姿で未来に引き継いでいくため、次の世代を担う多くの子どもたちに自分の手で苗木を育ててもらい、県民みんなが緑を慈しむ気持ちを大いに醸成するものとしたと考えております。

そうした思いを込めて、大会テーマを「緑の神話 今 そして未来へ 紀州木の国から」といたしました。

式典会場は、癒しの地・熊野の玄関口にある田辺市とし、県内各地に地域植樹会場を設けます。山青く、海青く、空青い和歌山へ、全国から多くの皆様にお越しいただきますよう、心からお待ち申し上げてごあいさついたします。

..

.....

閉会のことば

神奈川県議会議長 国吉 一夫



本日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」を大会テーマとして開催されました第61回全国植樹祭は、以上をもちまして滞りなく終了いたしました。

大会に参加されました皆様並びに関係者各位のご協力に感謝申し上げまして、閉会のことばといたします。

天皇皇后両陛下下御出発



招待者退場時アトラクション

雨足が強まる中、神奈川県鳶工業連合会若鳶会による情緒あふれる木遣り・纏^{まとい}・はしご乗りと、地元秦野市内の小中学生による秦野少女ラッパ鼓隊の演奏が行われました。



神奈川県鳶工業連合会若鳶会



秦野少女ラッパ鼓隊

サービス広場

南足柄会場



雨にもかかわらずとてもにぎわいました



県立21世紀の森ブース



(財)かながわトラストみどり財団ブース

南足柄会場



南足柄市茶道連絡協議会による呈茶席(丸太の森古民家)

秦野会場



サービス広場の様子



神奈川県森林関係ブース



神奈川県森林関係ブース(セミナーの様子)



秦野商工会議所ブース



林野庁東京神奈川森林管理署ブース



電気自動車体験ゾーン(神奈川県)

作品御覧

全国植樹祭の前日、5月22日(土) 湯本富士屋ホテル(箱根町)において、天皇皇后両陛下は大会ポスター原画及び国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール入賞作品を御覧になりました。



レセプション

作品御覧に引き続き、天皇后陛下をお迎えして、同ホテルにおいて全国植樹祭レセプションを開催しました。



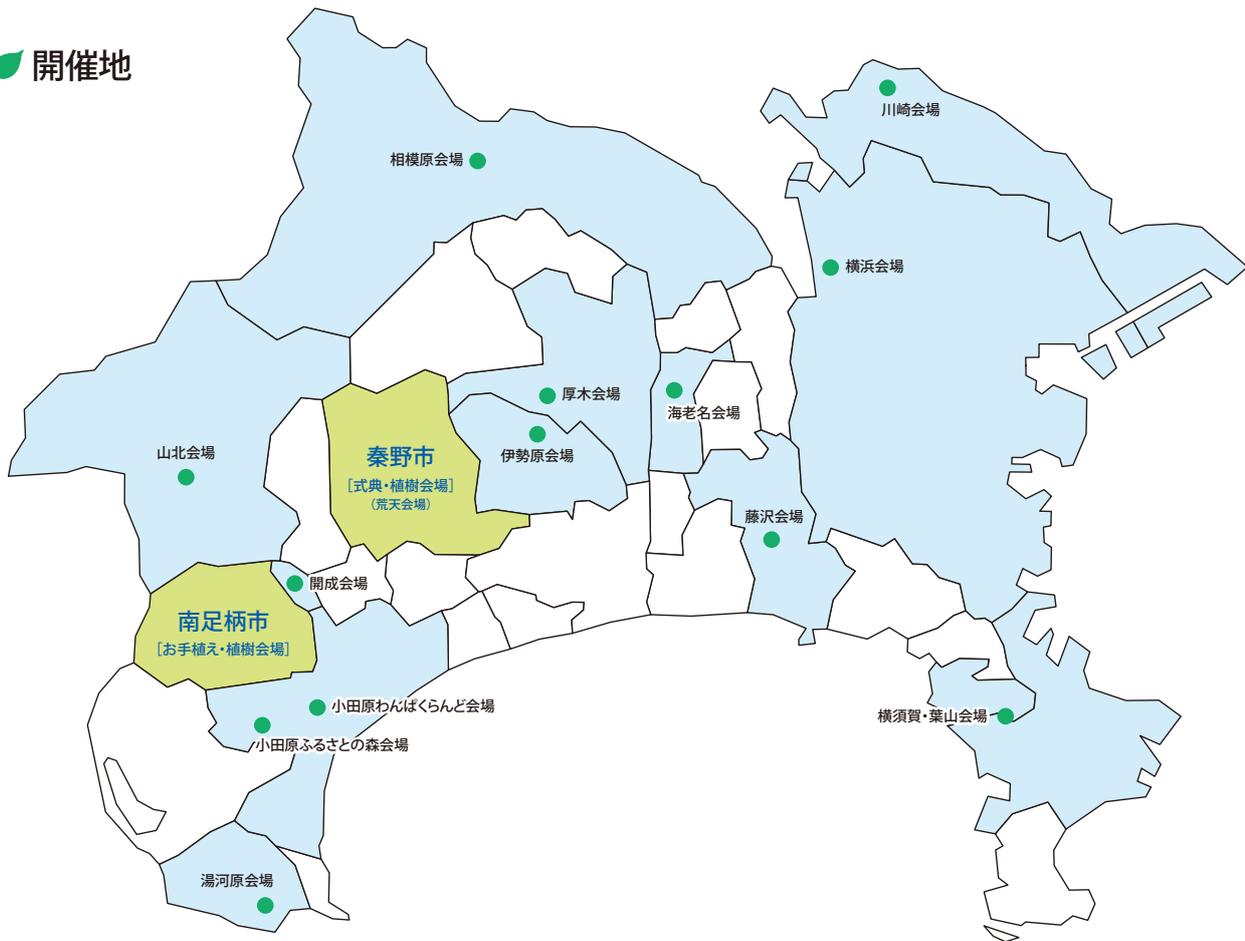
サテライト会場

神奈川県全体を全国植樹祭のステージとして、多くの県民に参加していただき、全国植樹祭で発信した森林再生の取組みを広く理解していただけるようサテライト会場を設置しました。

サテライト会場で実施するイベントでは、各地域で活動される方々と協働し地域の特性に応じた森林再生の取組みを発信しました。

開催期日 平成22年2月6日(土)から5月23日(日)までの間

開催地




会場紹介

会場名	コンセプト (同時開催イベント等)	開催日	会 場	来場者数	植樹本数
湯河原会場	四季彩のまちづくり(梅の宴)	2月6日(土)	湯河原梅林公園及び 桜郷地区 (足柄下郡湯河原町鍛冶屋 他)	2,160 人	20 本
横浜会場	次世代につなぐ豊かな森づくり (150万本植樹行動、開港150周年の森づく り、緑区制40周年記念)	3月13日(土)	玄海田公園 (横浜市緑区)	1,150 人	7,500 本
小田原 ふるさとの森会場	生活環境を守るふるさとの森づくり (ふるさとの森づくり運動)	3月20日(土)	久野塔ノ峰山頂付近 (ふるさとの森づくり運動 実施箇所) (小田原市久野)	490 人	2,500 本
相模原会場	未来へ引き継ぐ水源の森林づくり (第13回津久井湖さくらまつり)	4月 3日(土)	県立津久井湖城山公園 水の苑地(相模原市緑区)	6,000 人	225 本
厚木会場	潤いやすらぎを感じられる 緑の街づくり (第37回厚木市緑のまつり)	4月24日(土)	若宮公園 (厚木市森の里)	24,000 人	300 本
小田原 わんぱくらんど会場	生活環境を守るふるさとの森づくり	4月29日(木)	小田原こどもの森公園 わんぱくらんど (小田原市久野)	1,600 人	1,000 本
山北会場	町民とつくる未来につなげる 美しい森づくり (大野山山開き)	4月29日(木)	大野山山頂 (足柄上郡山北町皆瀬川)	3,000 人	1,000 本
横須賀・葉山会場	人を育て、人が憩う 次世代に引き継ぐ森づくり	5月2日(日)	湘南国際村 (横須賀市湘南国際村、 三浦郡葉山町上山口)	1,405 人	5,000 本
伊勢原会場	私たちの美しいふるさと 花と緑のまちづくり (第19回公園緑花まつり)	5月8日(土)	伊勢原市総合運動公園 (伊勢原市西富岡)	15,000 人	300 本
川崎会場	市民が進める多摩丘陵の森づくり かわさき市民100万本植樹	5月16日(日)	生田緑地 (川崎市多摩区)	5,000 人	5,000 本
藤沢会場	みんなで育てよう 「湘南藤沢の緑と水」の街づくり (親水公園まつり)	5月22日(土)	引地川親水公園一帯 (藤沢市大庭)	1,000 人	30 本
海老名会場	緑あふれる心のふるさと えびなの森づくり (えびなの森創造事業第5回市民植樹祭)	5月23日(日)	海老名市役所周辺 (海老名市勝瀬)	15,000 人	470 本
開成会場	町民による緑あふれる 住みよい街づくり	5月23日(日)	中家村公園 (足柄上郡開成町吉田島)	1,500 人	10 本
合 計				77,305 人	23,355 本

湯河原会場

開催日：平成22年2月6日(土)

テーマ：四季彩のまちづくり

場 所：湯河原梅林公園及び桜郷地区（湯河原町鍛冶屋 外）

サテライト会場は、13会場ありますが、湯河原会場からスタートをきりました。
会場では梅の花が咲き始めるなか、ヤマザクラ20本が植樹されました。



横浜会場

開催日：平成22年3月13日(土)

テーマ：次世代につなぐ豊かな森づくり

場 所：玄海田公園（横浜市緑区）

市民の皆さまがドングリから育てた苗木（スダジイ、ウバメガシ）を中心に植樹が行われました。「150万本植樹行動」、「開港150周年の森づくり」に併せて、開催されました。



小田原ふるさとの森会場

開催日：平成22年3月20日(土)

テーマ：生活環境を守るふるさとの森づくり（ふるさとの森づくり運動）

場 所：久野塔ノ峰山頂付近（小田原市久野）

広葉樹の苗木の植林や保育等の森林体験を通じて、市民運動により小田原市内の西部丘陵地に広葉樹林帯を創ることを目的とした「生活環境を守るふるさとの森づくり」をテーマとして開催されました。



相模原会場

開催日：平成22年4月3日(土)

テーマ：未来へ引き継ぐ水源の森林づくり

場 所：県立津久井湖城山公園水の苑地（相模原市緑区）

満開の桜に囲まれて、「津久井湖さくらまつり」と同時開催されました。式典では森林資源の有効活用、森林の様々な役割について、相模原市長や知事からお話がありました。



厚木会場

開催日：平成22年4月24日(土)

テーマ：潤いとやすらぎを感じられる緑の街づくり

場 所：若宮公園 (厚木市森の里)

全国植樹祭の1ヶ月前、「厚木市緑のまつり」と併せて開催されました。
一般来場者により、「カミネッコン」と呼ばれる段ボール製のポットへの植樹が行われました。



小田原わんぱくらんど会場

開催日：平成22年4月29日(木)

テーマ：生活環境を守るふるさとの森づくり (ふるさとの森づくり運動)

場 所：小田原こどもの森公園わんぱくらんど (小田原市久野)

広葉樹の苗木の植林や保育等の森林体験を通じて、市民運動により小田原市内の西部丘陵地に広葉樹林帯を創ることを目的とした「生活環境を守るふるさとの森づくり」をテーマとして開催されました。



伊勢原会場

開催日：平成22年5月8日(土)

テーマ：私たちの美しいふるさと 花と緑のまちづくり

場 所：伊勢原市総合運動公園（伊勢原市西富岡）

雄大な大山を望むことができる会場で、イロハモミジ等の代表者記念植樹が行われました。



川崎会場

開催日：平成22年5月16日(日)

テーマ：市民が進める多摩丘陵の森づくり

場 所：生田緑地（川崎市多摩区）

サテライトイベント開催を契機として、2024年の市制100周年に向けて、市民・事業者・行政の協働による緑化運動「かわさき市民100万本植樹～緑のミリオンムーブメント～」をスタートさせました。



藤沢会場

開催日：平成22年5月22日(土)

テーマ：みんなで育てよう「湘南藤沢の緑と水」の街づくり

場 所：引地川親水公園一帯（藤沢市大庭）

全国植樹祭開催の前日、新緑豊かな引地川親水公園一帯にて「親水公園まつり」と同時に開催されました。

会場は、多くの家族連れでにぎわいました。



海老名会場

開催日：平成22年5月23日(日)

テーマ：緑あふれる心のふるさと えびなの森づくり

場 所：海老名市役所周辺（海老名市勝瀬）

全国植樹祭と同日に開催されました。市長などの代表者により、天皇皇后両陛下がお手植えになる同樹種（クヌギなど）の記念植樹が行われました。



開成会場

開催日：平成22年5月23日(日)

テーマ：町民による緑あふれる住みよい街づくり

場 所：中家村公園（開成町吉田島）

式典では、小学生による大会テーマソングの合唱の他、町内各小中学校へ植樹されるシラカシの苗木が贈呈されました。

全国植樹祭と同日に開催されました。

